

# 公 民 [ 倫 理 ] ( 100 点 50 分 )

2005 年 5 月 23 日 ( 月 ) 2 限実施

千葉県立千葉東高等学校 第 3 学年 1,2,3,4,5 組+理系倫理選択者対象

Produced by K.Kataoka

## 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
  - 学年，組，名前を記入する。
  - 学年，組の該当個所をマークする。
  - 出席番号をマークする。(10番以上は10の位と1の位の2カ所)
  - 男女の欄をマークする
  - 1.2.3枚目のところはマークしない。
  - 停・欠・遅・早のところはマークしない。
  - 機械の読みとりミス確認のため、解答欄はマークの左側に番号を記入しておく。以上が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 4 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

# 倫 理

( 解答番号 [ 1 ] ~ [ 50 ] )

第 1 問 次の文章を読み下の問い ( 問 1 ~ 問 1 4 ) に答えよ。( 配点 28 )

ギリシアにおける哲学的思索は、先進文明国であるアジアの諸国との接触が密接であった小アジアのイオニア植民市において、前 6 世紀のころに始まった。それは、それまでのホメロスや (a) ヘシオドス による (b) 神話的世界観 とは一線を画すものだった。この時代の哲学者は、存在する事物の原理を、生成し消滅する存在者がそこから成り立っている第一の原理に求めた。タレスはこの (c) 万物の根源 を【A】であるとし、アナクシメネスは【B】、アナクシマンドロスは【C】とした。これらの人々はミレトスの人なので、ミレトス派とよばれる。(d) ピタゴラス派 では、万物の成り立ちは事物を構成する形式的な原理である数に求められる。世界は相反する諸性質の間に生まれる数的な調和 (= 比例, ログス) である。(e) ヘラクレイトス は、生成し消滅する存在者をその生成し消滅する過程の全体においてとらえようとした。それゆえ、存在者を成り立たせるものは同時にその反対の非存在でもあり、世界は相拮抗(きっこう)する相反者の間に成り立つ動的な調和としてとらえられる。

エレアの (f) パルメニデス は、これまでの哲学者のように存在を感覚において現象するものとして把握するのをやめ、感覚的な現象の背後にその根拠として不変不動な存在が理性に対して示現していることを明らかにした。これこそが存在の真実性であり、感覚的現象は虚像にすぎない。ここに、感覚に現象する生成・消滅する事物の「成り立ち」としての「自然」を求めた最初の哲学者たち、すなわち自然哲学者(フィシオロゴイ physiologi) とよばれる人々の思索は頓挫し、哲学は新たな端緒を求める。

パルメニデス以後、ギリシアの哲学は、(一)パルメニデスの論理を追究した弁証論者(エレアのゼノン)、(二)パルメニデスに従い、これを多元化することによって、その相互関係の変化によって自然世界の多様性を救おうとした多元論者( (g) デモクリトスの原子論、(h) エンペドクレス、アナクサゴラスたち。)、(三)自然学の伝統とは関係なく、ことばの機能を説得(魂の誘導)に置く弁論術の伝統に基づき、すべてのことばを人間存在に関係づけて理解し用いた (i) プロタゴラス や (j) ゴルギアス ら (k) ソフィスト の三派に分かれ、低迷を続けた。

問 1 文中の下線部(a)に関連して、ヘシオドスによる詩の一部の引用として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 1 ]

人間は労働によって家畜もふえ、裕福にもなる。また働くことでいっそう神々に愛されもする。

ムーサよ、わたしにかの男の物語をしてください。トロイアの聖なる城を屠った後、ここかしこと流浪の旅に明け暮れた、かの機略縦横なる男の物語を。

駿足のアキレウスは、信実の友が鋭利の刃に切りさいなまれ担架に横たわる姿を見て、熱い涙をこぼしながら後についてゆく。

されどいま、この身は神に見放され、われは汚れた母の子供、あわれこの身を生んでくれた、父なる人の妻はわが妻。禍（わざわい）になおいやまさる禍が、この世にもしもあるとせば、それこそはこのオイディプスのもの。

問2 文中の下線部(b)に関連して、下の説明があらわすギリシア語の用語として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[2]

【用語説明】生成の根源にあつて、形を未だ有しない原質の無秩序な状態。宇宙の生成にあつて、他の万物が生成する場。

スコレー                  カロカガティア                  カオス                  コスモス

問3 文中の下線部(c)に関連して、「万物の根源」をあらわすギリシア語の適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[3](98年センター本試改題)

ハルモニア                  アレテー                  アルケー                  プシュケー

問4 文中の空欄【A】【B】【C】に入るものの組合せとして適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[4]

- 【A】空気    【B】無限(定)なもの    【C】水
- 【A】空気    【B】水                                  【C】無限(定)なもの
- 【A】水        【B】無限(定)なもの    【C】空気
- 【A】水        【B】空気                                  【C】無限(定)なもの

問5 文中の下線部(d)に関連して、17世紀に惑星の運動法則が発見されるきっかけの一つとして、神が創造した宇宙では天体が妙なる音楽を奏でているはずだという考え方があった。その考え方の由来となったピタゴラス派の思想を説明した記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[5](99年センター追試)

ピタゴラスが考えたように、惑星の位置や運行は楽曲のメロディーと同じく偶然決まったに過ぎないが、一度決まると同じ形で反復される。

ピタゴラスが考えたように、惑星の位置や運行は整然とした数的秩序に従っており、楽曲のハーモニーと同じ原理に基づいている。

ピタゴラスが考えたように、惑星は神によって動かされており、その原動力はエロースである点で楽曲の創作と同じである。

ピタゴラスが考えたように、惑星は神によって動かされており、その運行の美はカタルシスをもたらす点で楽曲と同じ作用を持っている。

問6 文中の下線部(e)に関連して、ヘラクレイトスの言葉として適当でないものを、次の  
～ のうちから一つ選べ。[6]

肉体は魂の墓場(牢獄)である。

戦いは万物の父であり、万物の王である。

同じ川に二度入ることはできない。

万物は火の交換物であり、火は万物の交換物である。

問7 文中の下線部(f)に関連して、パルメニデスの考え方の説明の記述として最も適当な  
ものを、次の～ のうちから一つ選べ。[7]

「有らぬもの」の存在を認めず、生成消滅や空虚、運動を肯定した。

「有らぬもの」の存在を認めず、生成消滅や空虚、運動を否定した。

「有らぬもの」の存在を認め、生成消滅や空虚、運動を肯定した。

「有らぬもの」の存在を認め、生成消滅や空虚、運動を否定した。

問8 文中の下線部(g)に関連して、デモクリトスの原子論を説明した文として最も適当な  
ものを、次の～ のうちから一つ選べ。[8](98年センター本試)

陰気と陽気であるアトムが、空間としてのケノンにおいて運動する。

全体としてのアトムが、空間としてのケノンの中で分離し万物を構成する。

分割できないアトムが、空間としてのケノンにおいて運動し集合離散する。

木火土金水の五種のアトムが、空間としてのケノンの中で万物を構成する。

問9 文中の下線部(h)に関連して、エンペドクレスの多元論を説明した文として最も適当  
なものを、次の～ のうちから一つ選べ。[9]

無からの生成と無への消滅を否定し、地(土)・水・火・風(空気)の元素の結合と分離によって現象を説明した。

無からの生成と無への消滅を否定し、木・火・土・金・水の元素の結合と分離によって現象を説明した

地(土)・水・火・風(空気)の元素の結合と分離によって、無からの生成と無への消滅を説明した。

木・火・土・金・水の元素の結合と分離によって、無からの生成と無への消滅を説明した。

問10 文中の下線部(i)に関連して、プロタゴラスの主張として最も適当なものを、次の  
～ のうちから一つ選べ。[10](93年センター本試)

- いかなる場合でも自分の国家と国法に従え
- 人間こそが真理の基準である
- 実在とされるものはすべてつねに変化している
- 公共生活を避けて個人の幸福を目指せ

問11 文中の下線部(j)に関連して、プラトンの対話篇『ゴルギアス』に登場するカリクレスは、次のような議論を展開している。それを踏まえたうえで、カリクレスの立場に合致する記述として最も適当なものを、下の  
～ のうちから一つ選べ。

[11](2001年センター追試)

世の中の大多数の弱者(能力の劣った者)は、強者(能力の優れた者)から自分たちの利益を守るために、他者より多く所有することは不正である、という平等主義的な法律や慣習を作り出した。しかし、弱肉強食の動物の世界を見ればわかるように、強者が弱者を支配し、より多く所有するのが、自然本来のあり方であり、真の正義である。

絵の上手な人と歌の上手な人との能力差は比較できないので、各人の優劣は客観的に数値化された学力差によって決めるべきである。

小学校の徒競走で足の速い生徒にハンディキャップをつけるのは、競争原理の否定につながり、理不尽である。

多数決原理を基本とする民主主義であっても、自分の政策を実現するためには「数の力」だけに頼らずに、少数意見にも耳を傾けるべきである。

プロのスポーツ選手や人気歌手が時に数億円もの報酬をもらうのは、人間の金銭感覚を麻痺させる異常な事態である。

問12 文中の下線部(k)に関連して、ソフィストたちは徳の教師を自認していたが、ゴルギアスたちソフィストにとっての徳をあらわすものとして最も適当なものを、次の  
～ のうちから一つ選べ。[12]

- 幾何学
- 真理
- 弁論術
- 知恵

問13 プラトンが批判した、ソフィスト的な相対主義の例として最も適当なものを、次の  
～ のうちから一つ選べ。[13](93年センター追試)

「寒さ」それ自体は存在するが、寒さの感覚は人によって様々である。

「暑さ」それ自体、「寒さ」それ自体は存在しないが、真夏日にはだれでも暑いと感じ、真冬日はだれでも寒いと感じる。

真冬日がだれにとっても寒く感じられるのは、「寒さ」それ自体が存在するからである。  
私にとっての寒さ、あなたにとっての寒さだけがあり、それをはなれて「寒さ」それ  
自体は存在しない。

問14 ノモスとピュシス(フュシス)二つの用語の使い方として最も適当なものを、次  
の ~ のうちから一つ選べ。[14]

国家はノモスにもとづくものであり、ピュシスにもとづく宇宙とは原理が異なる。  
世界の理性としてのノモスが自己展開することによって、歴史がピュシスする  
ギリシア的な求めるノモスが、キリスト教的な与えるピュシスと対立する。  
人間の心の深層のノモスの力によって、ピュシスの制度が生まれる。

第2問 次の文章を読み下の問い(問1～問10)に答えよ。(配点 20)

アテネに生まれたソクラテスは、自分自身の[ A ]をたいせつにすることの必要を説き、自分自身にとってもっともたいせつなものは何かを問うて、毎日、町の人々と哲学的対話を交わすことを仕事とした。若いころのことについて、確かなことは知られない。われわれに親しいのは、年配のソクラテスがアテネの街角や体操場で美しい青少年を相手に、また町の有力な人々を相手に、人を幸福にするものは何か、善いものは何か、勇気とは何かと問いただしている姿である。これをソクラテスの(a)問答法(=ディアレクティケー)という。これらの問答の主題は、多くこのように[ B ]に関するものであった。そして、この問答はいつも「まだそれはわからない」という無知の告白を問答者が相互に認め合うことで終わった。この際、相手は、(b)ソクラテスがそういいながらも実は自分では知っているという印象をもつことが多く、そこで自己の無知を露呈された人々は、ある場合、ソクラテスのやり口の陰険さに怒った。

しかし、ソクラテスの真意は、各人が自己の存在がそれによって意味づけられている究極の根拠についての無知を悟り、これを尋ねることをなによりもたいせつなことと知るように促すことにある。もとより、ソクラテスがこの根拠を知るというのではない。むしろ、究極の根拠についての無知を悟り(無知の知)、それへの問いかけを通じてこの「行き詰まり」(アポリア)のうちにとどまるところにソクラテスの愛知(フィロソフィアー=哲学)がある。それは根源から問いかけられるものとしての場に、己を置くことであり、このような方法で己が全体として根源から照らされることである。

これまでのギリシアの哲学者は宇宙の原理を問うた。ソクラテスにおいて、初めて自己と自己の根拠への問いが哲学の主題となる。

問1 文中の空欄[ A ]に入る言葉として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[ 15 ]

気 概            真 理            魂            美

問2 下線部(a)に関して、ソクラテスは自分の問答を産婆術(助産術)と呼んだ。それを説明する記述として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[ 16 ](2005年センター本試)

産婆の助けがないと妊婦の出産は困難であり、出産は両者の協同により成功する。ソクラテスも対話相手も無知であるが、問答によってお互いの不足を補いながら探究することにより、真理に到達できる。

産婆は高齢のため身ごもることはできず、出産を助けることだけができる。ソクラテスは無知であるが、問答によって対話相手の考えを引き出す手助けを学ぶことを通じて、無知から解放されるようになる。

産婆は高齢のため出産はできないが、妊婦の状況を見極めて、その赤子を取り上げることができる。ソクラテスは無知であるが、問答によって真偽を吟味しながら、対話相手自らの考えを引き出すことができる。

産婆は妊婦の出産までを熟知しており、妊婦に適切な出産法を教えることができる。対話相手は無知であるが、問答によってソクラテスから真理を教授されることにより、真偽を判断することができる。

問3 文中の空欄 [ B ] に入る言葉として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [ 17 ]

制作            実践            理論            論理

問4 下線部(b)に関して、無知をよそおうソクラテスのやり口についての言葉として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [ 18 ]

ユーモア            アイロニー            ウィット            ダイアログ

問5 デルフォイの神殿に伝えられる「汝自身を知れ」という箴言に対するソクラテスの解釈として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [ 19 ]

哲学の出発点としての無知の知                            知の限界を悟った諦念  
現象を超える真実に対する不可知論                            過度の欲望を押さえる節制

問6 次のア～エのソクラテスに関する記述のうち、正しいものの数として適当なものを、下の ~ のうちから一つ選べ。 [ 20 ] (2004年センター本試改題)

ア デルフォイの神託がソクラテス以上の知者はいないと告げたことを誇りとし、問答によって人々に真理そのものを説いた。

イ 自らを「無知の知」にもとづく知者と公言し、アテネに学校を創設して多くの弟子たちを教えた。

ウ 「汝自身を知れ」というデルフォイ神殿の標語のもとに、問答法によって人々とともに知の探究に努めた。

エ 神霊(ダイモン)を導入して青年たちを新しい宗教に引き込み、彼らを墮落させたと告発され、アテネを追放された。

1つ            2つ            3つ            4つ

問7 ソクラテスは問答法におけるロゴスの働きを重視した。ソクラテスのロゴスについての言及として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [ 21 ] (2004年センター追試)



はじめにロゴスがあった。ロゴスは神であった。万物はロゴスによって成った。ロゴスによらずになったものは何一つなかった。ロゴスの内に命があった。命は人間を照らす光であった。

万物はロゴスにしたがって生じているのに、人々はそれに出会ったことがないかのようである。私が各事物を自然本性に従って分析し、その真の在り方を説明しているというのに。

動物の中で人間だけがロゴスを持つ。ロゴスは人間に利と不利を、したがってまた正と不正を表示する。なぜなら、人間だけが善悪、正と不正などを知覚できるからである。

私という人間は、自分で考慮してみても最善と思われるロゴス以外の他の何ものにも従わない。だから、今この場でもっとよいロゴスが提出されない限り決して譲歩しないだろう。

問8 ソクラテスが語るドクサの意味として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 22 ]

真なる知識                      理性的認識                      知への愛                      思い込み

問9 ソクラテスの思想をあらわす言葉として適当でないものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 23 ]

あなたの隣人を愛しなさい                      徳は知である  
善く生きることこそ大切なのだ                      知識は行為と不可分である

問10 ソクラテスが友人の勧める脱獄を拒んだ理由として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 24 ]( 96 年センター追試 )

自分が教えた青年たちが、国家の有力者に働きかけて、国法を改正して自分を解放してくれると信じていたので、それに希望をつないで、じっと待機すべきであるから。

判決が不当な者であるにしても、脱獄すれば不正を犯してしまうことになる。そうすることは、人間にとって最も大切な者である魂をそこなうことにほかならないから。

友人の助言を考慮することは、知らなくてもよいことを知るという結果になり、もっと長く生きたいという欲望も増すことになるので、これに耳をかさないことの方が無欲な在り方を保てるから。

脱獄することは、人間わざを超えた不可能なことであるにもかかわらず、それができるとするのは無知にほかならない。人はそのような無知に基づく行為はすべきでないから。

第3問 次の文章を読み下の問い(問1～問9)に答えよ。(配点 18)

ソクラテスの弟子プラトンは、魂の転回によって、(a)人が魂の目をもって内に見うるものにこそ真実在があると考え、これを (b)イデア idea とよんだ。これに反して、自己の外に、感覚を通じて触れうるものは、いつも生まれてくるとともに、いつも過ぎ去っていくもの、流動変化を免れない[ A ]のようなものである。見える感覚界から見えないイデアの世界に転向していく魂の動きが愛知(哲学)であり、イデアはこの魂の転回を可能ならしめる根拠である。プラトンはこれを論理的な構想力と詩的な想像力を駆使して、(c)全実在界の構成に関する壮大な存在論の体系と、この実在界を遍歴する魂に関する雄渾(ゆうこん)なミュートス mythos として表現した。しかし、愛知は、本来、体系の構想を目ざさず、究極なるものの直観に向かう。この究極知は、愛知者が相互に交わす問答を通じて、愛知の長い道行きののち、各自の魂の内に、いわば飛び火のようにして得られ、保たれるものである。

問1 空欄[ A ]に入れるのに最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。

[ 25 ]

火 川 影 風

問2 プラトンの開いた学園に関する説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 26 ]

学園への入学条件として幾何学を重視した。

この学園の人々はペリパトス学派と呼ばれた。

開校から約90年後にユスティニアヌス帝によって閉鎖された。

学園はアテネの彩色柱廊に作られた。

問3 下線部(a)に関して、人間の魂がイデアの世界を認識できる根拠となる概念として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 27 ]

アレタイア アナムネーシス ヒック・ロードス スコレー

問4 下線部(b)の説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 28 ]  
(93年センター追試)

自由をその本質とする絶対的な精神そのもの

人間の一切の精神的な活動のあり方を規定する構造

変化してやまない感覚的個物の存在を根底で支える素材

絶えず変動する感覚的世界を超えた永遠の存在

問5 下線部(c)に関して、善のアイデアの説明として適当でないものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 29 ]

最高のアイデア

太陽に譬えられる

幸福な生活

エロースの最終目的

問6 プラトンの説くエロースを説明する語句として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 30 ]( 2001 年センター追試 )

快楽主義的な生

自己犠牲的な愛

男女間の性的な欲望

善美なものへの憧れ

問7 プラトンの著作として適当でないものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 31 ]

『ソクラテスの思い出』

『国家』

『ソクラテスの弁明』

『饗宴』

問8 愛を主題としたプラトンの著作として適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 32 ]

『ソクラテスの思い出』

『国家』

『ソクラテスの弁明』

『饗宴』

問9 魂の三部分の関係に基づいて国家のあり方を説明したプラトンの思想として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 33 ]( 2005 年センター本試 )

一人の王の統治は、知恵を愛する王による統治であっても、つねに独裁制に陥る危険を孕んでいる。それゆえ防衛者階級も生産者階級も知恵・勇気・節制を身につけ、民主的に政治を行う共和制において正義が実現する。

知恵を愛する者が王になることも、王が知恵を愛するようになることも、いずれも現実的には難しい。知恵を愛する者が、勇気を身につけた防衛者階級と節制を身につけた生産者階級とを統治するとき、正義が実現する。

統治者階級は、知恵を身につけ、防衛者階級を支配し、防衛者階級は、勇気を身につけ、生産者階級を支配する。さらに生産者階級が防衛者階級に従い節制を身につけたとき、国家の三部分に調和が生まれ、正義が実現する。

知恵を身につけた統治者階級が、防衛者階級に対しては臆病と無謀を避け勇気を身につけるよう習慣づけ、生産者階級に対しては放縦と鈍感を避け節制を身につけるよう習慣づける。このようなときに正義が実現する。

第4問 次の文章を読み下の問い(問1～問7)に答えよ。(配点 20)

プラトンの弟子アリストテレスは、(a)存在の現象が感覚的経験に与えられるとする点で、自然学者の立場に復帰した。そして、パルメニデスからプラトンまでの論理説を(b)三段論法という形式として展開し、それを自然の諸領域における原理究明の方法論とした。こうして成立する学問が論証学である。「万学の祖」という呼称が示すとおり、今日の(c)特殊科学の基礎はアリストテレスの置いたものである。イデアは外なる実在界の内に移し置かれ、自然物の運動を引き起こす原理としての事物の[ 38 ]となった。存在者は無形の[ 39 ]にこの[ 38 ]が働きかけて形成される。

しかし愛知者の究知は自然の個々の領域の認識にとどまらず、すべて存在するものを根拠づけている究極の原理の認識に向けられる。これは「神」であり、愛知者の愛知も、また人間のすべての行為も究極においてはこの神の(d)観想(テオリア)に定位され、これに根拠づけられているものである。行為の究極根拠を問うソクラテスの問いは、アリストテレスではこのような形で答えられ、このような形で(e)倫理学と政治学の体系が構成される。

問1 下線部(a)で述べられているアリストテレスの考え方を説明したものとして最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[34]

- 本質的眞実在の世界を認めた理想主義
- 現実世界を仮象ととらえた理想主義
- 本質的眞実在の存在を否定した現実主義
- 実体を現実の世界の個物のみ求めた現実主義

問2 下線部(b)に関して、アリストテレスが定式化した三段論法式の具体的な例(真偽は問わない)として適当でないものを、次の～のうちから一つ選べ。[35](99年センター本試改題)

- 太郎がいれば花子は笑う。花子は笑っていない。ゆえに、太郎はいない。
- 太郎がいれば花子は笑う。花子は笑っている。ゆえに、太郎はいる。
- これまで発見されたどのカラスも黒い。ゆえに、カラスは黒い。
- すべてのカラスは黒い。この鳥はカラスである。ゆえに、この鳥は黒い。

問3 下線部(c)に関して、アリストテレスは『形而上学』の中で学問を4種類に分類したが、次にあげる学問[36][37]があてはまる学問の分類を、下の～のうちから一つずつ選べ。

- |      |     |      |     |
|------|-----|------|-----|
| [36] | 倫理学 | [37] | 数学  |
|      | 論理学 |      | 制作学 |
|      |     |      | 理論学 |
|      |     |      | 実践学 |

問4 文中の空欄[ 38 ], [ 39 ]に入る適当な語句を、次の ~ のうちから一つずつ選べ。

ヒュレー                  フュシス                  ノモス                  エイドス

問5 下線部(d)に関して、『ニコマコス倫理学』において人間固有な働きの中でも最高の働きと評価される「テオリア」についての説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 40 ](2004年センター本試)

テオリアとは、原理を直感的に把握する理性の働きである。

テオリアとは、主に制作活動に関わる理性の働きである。

テオリアとは、厳密な論証・推論としての理性の働きである。

テオリアとは、主に行為・実践を導く理性の働きである。

問6 下線部(e)に関して、アリストテレスの倫理学についての説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 41 ](99年センター本試)

正義・節制・友愛などの倫理的徳が、最高善としての幸福をもたらすものである。

正義・節制・友愛などの倫理的徳は、人間に生まれつき備わっているものである。

人は善き習慣のうちに倫理的徳を身につけ、感情や欲望を統制することができるようになる。

人は何が中庸かを倫理的徳によって知り、過度な欲望にとらわれることを避けることができる。

問7 アリストテレスによる「配分的正義」と「調整的正義」の説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つずつ選べ。配分的正義については[ 42 ]に、調整的正義については[ 43 ]に答えよ。(92年センター本試)

理想的な国家を実現するために、国家を構成する三つの階層がそれぞれ自分に与えられた仕事や本分を果たすこと。

一つの共同体を構成する人々の間で、その能力や業績などに応じて、それにふさわしい名誉や財産を振り当てること。

それぞれの国家を支配するものが、自らの利益になることをめざして制定した法律に、人々が従うこと。

取引や契約その他、人と人との間のあらゆる利害関係において生じた各人の損失と不当な利得を、補償や処罰によって復元すること。

利益のあくなき追究をその本性とする人間が、自分の財産や権利が損なわれるのを恐れて、互いの間で約束を取り結ぶこと。

個人の間のような様々な差異を一切考慮に入れないで、各人の地位や罪科の均等な状態を実現すること。

第5問 次の文章を読み下の問い(問1～問?)に答えよ。(配点 14)

アレクサンドロス大王によりギリシアの都市の自由が奪われてから、時代は、創造よりは整理、根源的思索よりは反省の時代に入った。生粋のギリシア人ではない人々が競ってギリシア風を模倣した時代には、古典時代の哲学者の著書の校訂、出版や注釈、解説が盛んに行われた。しかし保存はいつも反省を伴う。古典時代に展開された哲学の原理は、この時代に整理され、反省を加えられ、次代の思想を導く過渡的な形態をとった。

これは、まず、実践の原理の反省としてなされる。(a)この時代の人々は、各個人が自己の内に生きるための原理を求めた。種々の哲学派は「生きる術」を教えて互いに覇を競った。(b)ストア学派は、ソクラテスの善の教えを徹底することによって[ 44 ]の倫理をつくり、(c)エピクロスは[ 45 ]を代表して快樂にのみ善を求めた。アカデメイア学派は確かな認識を断念して、ただ探究の内に生きることのなかにプラトンの教えの真髄をみた。これらはすべて古典哲学の原理の一面的な強調であるが、同時にそれは、生きる原理という観点からする古代哲学の反省でもあった。このことは、これらの諸派ののちに、プラトン哲学の再興として、古代哲学の最後を飾る (d)新プラトン主義についても同じくいえることであり、ここでは古代哲学の諸原理が、究極知に至る魂の道行き、または救済という観点で反省、総合され、救済の知としてのキリスト教へと導く道となっている。

問1 文中の空欄[ 44 ][ 45 ]に入る語句として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つずつ選べ。

唯物論	禁欲主義	合理主義
観念論	功利主義	経験論

問2 下線部(a)に関して、このような状況が現れた背景を説明する文として最も適当なものを、下の ~ のうちから一つ選べ。[ 46 ]

この時期、ギリシアにオリエント文化がもたらされ、その文化がすぐれて個人主義的傾向をもつものであったことから、従来のポリス中心主義に対する批判が高まり、ギリシアの伝統に合致する個人主義思想が求められた。

この時期、国家・民族の枠を超えて、個人の決断としての信仰のうちに人間の救いの条件を見ていたキリスト教の影響力が、地中海世界に広まりつつあった。

それまでギリシアの人々の生活の基盤であったポリスが、この時期、政治的独立を失っていき、ポリスの一員としての生き方より、世界の中の個人としての生き方が、より強い関心の対象となった。

ポリス間の抗争や奴隷の反乱により、この時期、多くの人命が失われた結果、自由人・奴隷の差別を超えたあらゆる人間の生命の尊厳と平等が自覚され、国家社会に対する個人の独自性が強く叫ばれた。

